

第1章

描法の基本

1 水墨画の表現とは…………… 8

2 道具について…………… 8

筆・紙・墨と色彩…………… 8、11

3 水墨画の基本技法…………… 12

用筆について…………… 12

水墨画の画法…………… 14

用墨について…………… 16

第2章

写生から作品に

1 写生について…………… 18

2 構図について…………… 21

3 花を描く基本練習…………… 24

4 写生から水墨画表現に…………… 26

例1…水仙…………… 28

例2…カーネーション…………… 30

例3…筑紫いばら…………… 32

例4…りんどう…………… 34

17

7

水墨色紙
花の12ヶ月

目次

| | | |
|-----------|----------|----|
| 睦月(二月) ① | カトレア | 42 |
| 睦月(二月) ② | 南天 | 44 |
| 如月(二月) ① | フリージア | 46 |
| 如月(二月) ② | 椿 | 48 |
| 弥生(三月) ① | ピオラ | 52 |
| 弥生(三月) ② | 路の聲 | 54 |
| 卯月(四月) ① | 猫柳 | 56 |
| 卯月(四月) ② | 土筆 | 58 |
| 皐月(五月) ① | 山藤 | 60 |
| 皐月(五月) ② | 紫蘭 | 64 |
| 水無月(六月) ① | 花菖蒲 | 66 |
| 水無月(六月) ② | ポピー | 68 |
| 文月(七月) ① | 露草 | 70 |
| 文月(七月) ② | 沙羅の花 | 72 |
| 葉月(八月) ① | 野薔 | 74 |
| 葉月(八月) ② | 朝顔 | 76 |
| 長月(九月) ① | 萩 | 80 |
| 長月(九月) ② | 秋桜 | 84 |
| 神無月(十月) ① | 紫詰草 | 86 |
| 神無月(十月) ② | 吾亦紅 | 88 |
| 霜月(十一月) ① | 野ぶどう | 90 |
| 霜月(十一月) ② | 石路 | 94 |
| 師走(十二月) ① | シクラメン | 96 |
| 師走(十二月) ② | クリスマスローズ | 98 |

参考作例・水墨画作品

100
~
111

水墨画の表現とは

絵画表現は実に多種多様で、何をどのように表現してもよいわけですが、表現の真髄は“自由”ではないかと思つていきます。水墨画も絵画表現の二つの方法であつて、道具などにきまりことはありますが、水墨画という表現領域を狭くとらえたくはありません。

私たちは、先人の表現方法やその精神などを学んで、自分の表現をより豊かにしていくことができます。それとともに、現実には生活し、生きていく自分の目や感性に依拠し、それを育てていくことが、自分の表現につながっていくように思います。

ここでは、そんな自分の気づきや発見、知ったことなどを大切にしたい水墨画をめざしたいと思います。中でも“写生”はそんな発見などの喜びを知らしむるいい手立てになりますので、本書では随所に写生を収録して解説していきます。

さて、実際の写生、水墨画の作品作りに入るまえに、水墨画の用具と基本となる技法、画法について、その概要を解説していきます。

道具について

水墨画は水と墨（または色彩）と紙などとの結合から生まれてきます。それを生み出す道具の主なものの上げてみましょう。

筆

水墨画では主に毛筆を用いていますが、筆をはじめ、刷毛、竹筆、ほうき、草蓑、羽毛等々、それぞれいろいろな素材が描く道具になりえます。（写真1）

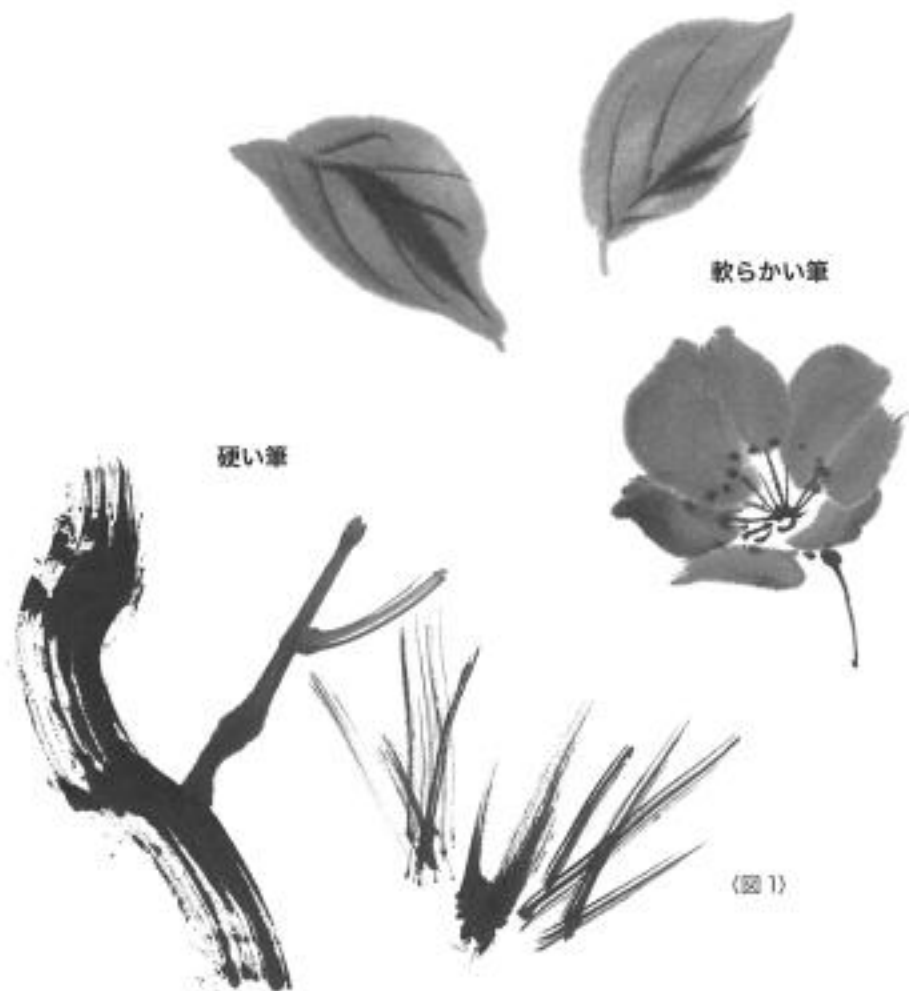


(写真1)

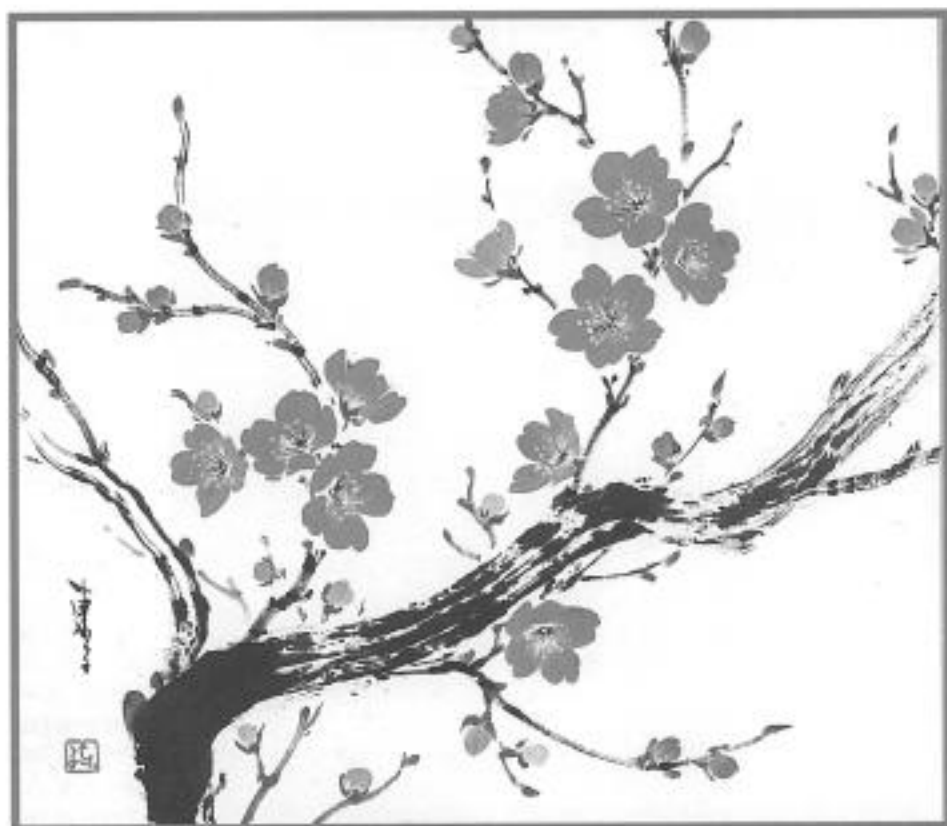
本書では、大から小のいたちや羊毛の筆を用いました。

また、毛筆には軟らかい毛と硬い毛のものとがあります。軟らかい毛の筆（羊毛など）は水分をよく含みますので、どちらかといえば潤いのあるものを描くのに適しています。また硬い毛の筆（山馬筆など）は水分をあまり含みませんので、水気の少ないもの（例えば老木や岩石など）を描いたり、かすれなどを表現する時に向いています。（図2）

さらに、毛筆には長い毛と短い毛、太い毛と細い毛など多様なものがあるので、描くものや内容によって使い分けると効果的です。

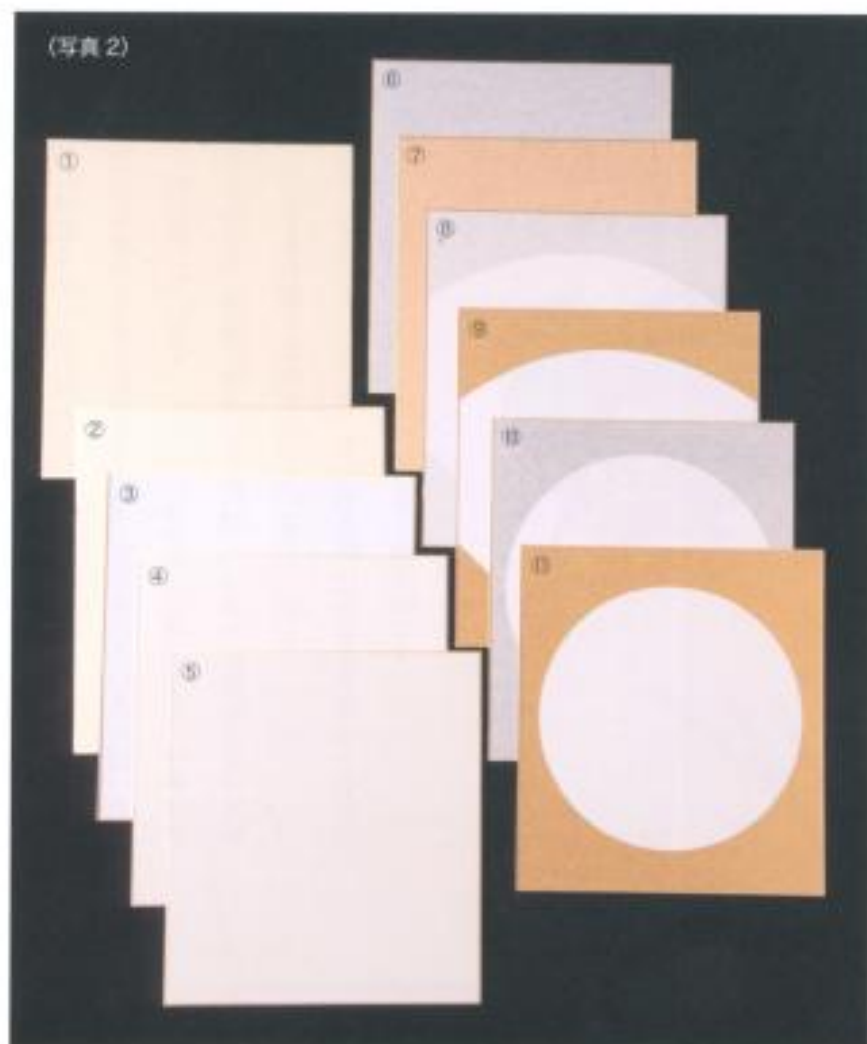


花びらには軟らかい筆を、幹と枝は硬い筆を用いました。

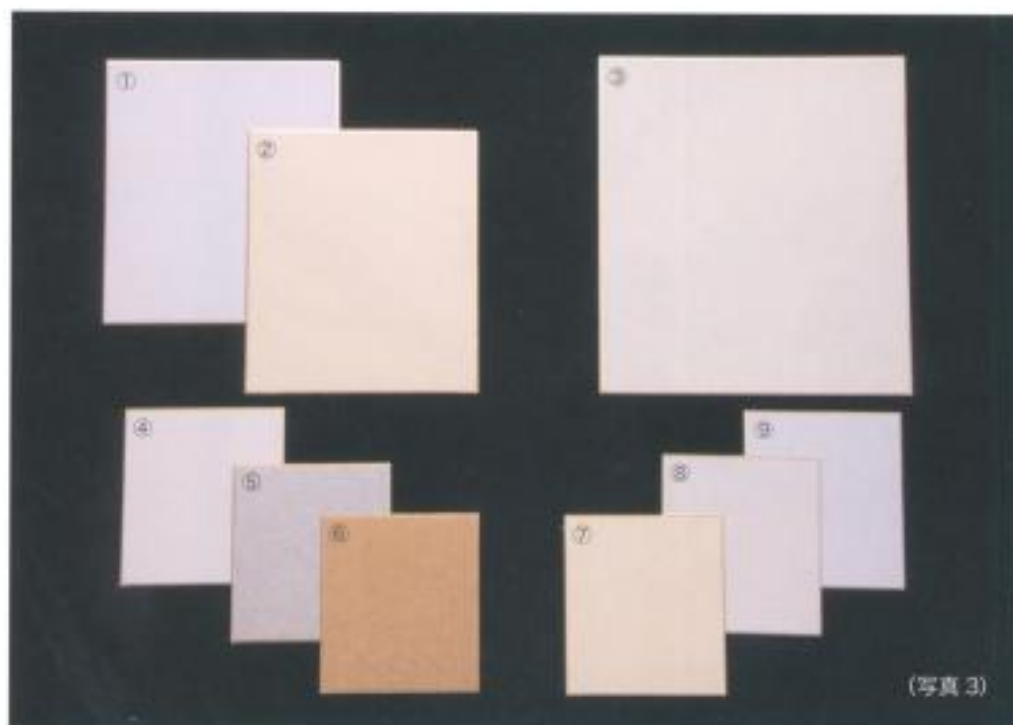


紙

紙は、ドーサ液などでにじみ止め加工したものの（加工紙、または熟紙と称している）と、していないもの（生紙と称している）とがあります。それぞれに、画仙紙や和紙（麻紙や楮紙、三標紙など）があり、厚さも様々です。また、絵絹もあり、にじみの出にくいものとして鳥の子やコットン紙、画用紙などがあります。その他、紙にこだわらず、板や綿布、キャンバスなどを用いる人もいます。それぞれ表現したい目的によって選ぶとよいでしょう。ここでは、紙の種類として本書で主に解説している色紙について紹介していきます。（写真2、4）



①手漉き鳥の子紙、②鳥の子紙、③絹、④本画仙紙、⑤麻紙、⑥銀漉紙、⑦金漉紙、⑧銀漉画面紙、⑨金漉画面紙、⑩銀漉円窓紙、⑪金漉円窓紙



①小色紙（画仙紙）
②小色紙（鳥の子紙）
③色紙（本画仙紙）
④寸松庵（絹目画仙紙）
⑤寸松庵（銀漉紙）
⑥寸松庵（金漉紙）
⑦寸松庵（鳥の子紙）
⑧寸松庵（麻紙）
⑨寸松庵（和画仙紙）

（写真3）

墨と色彩

墨には大別すると、油煙墨(茶墨系)と松煙墨(青墨系)とがあります。その他、色墨、墨汁などもあります。

彩色する場合は、水性画材ならばほとんど水墨画的な表現ができます。水彩絵の具、顔彩、水干絵の具、岩絵の具、アクリル絵の具、水性色鉛筆、ガッシュ(不透明水彩)など。最近では水性油絵の具も出てきました。水墨画では顔彩がよく使われていますが、こうした種々の画材も用途によって使い分けてみると、面白い効果が得られます。また、混色によって微妙な色合いも出ます。墨と色の混合も落ち着いた風合いを醸し出します。ただし、あまり多くの色を混合すると色調が暗くなつていきますので注意しましょう。(写真5・6)



各種のコットン紙



(写真5) 各種の顔彩

(写真6) 各種の透明水彩絵の具



水墨画の基本技法

用筆について

●筆の持ち方と運び方

筆を握る位置は、長い線を引いたり広範囲に筆を動かすような場合は、筆軸の上端を握って描くと活発に動かせます。短い線や細かいものを描く場合は、筆軸のやや下目を握って用いると描きやすいでしょう。筆の持ち方や運び方も描く内容によって選ぶようにします。

【筆の持ち方】（常に親指が筆をささえている）

- ・単鉤……筆軸にかける指は人さし指
- ・双鉤……筆軸にかける指は人さし指と中指
- ・四指斉頭……全指

【筆の運び方】

- ・捉腕法……筆を持つ腕を紙面につけて描く方法。
- ・枕腕法……筆を持つ腕の下にもう一方の手を置いて描く方法。
- ・懸腕法……筆を持つ腕を紙面につけず、肘を浮かして描く方法。

●用筆法

用筆の方法にはいろいろな側面から多種多様なものがありますが、よく用いられるものに、次のようなものがあります。

中锋

筆軸を紙面に垂直に立てて筆を運び、筆先は描線の中央にあるようにします。線質は力強く、厚みがあります。

側鋒

筆の穂を紙面に傾斜して置き、そのまま筆を運びます。このとき筆先は描線の片側にあります。鋭利な線や広さを表現できます。

順鋒（臥筆中鋒）

筆軸を傾けた方向に向かって筆を運びます。おだやかでなめらかな線質となります。

逆鋒

筆軸を傾けた方向とは逆に向かって筆を運びます。線の形の変化や隙しさが表現できます。

散鋒（破筆・破鋒）

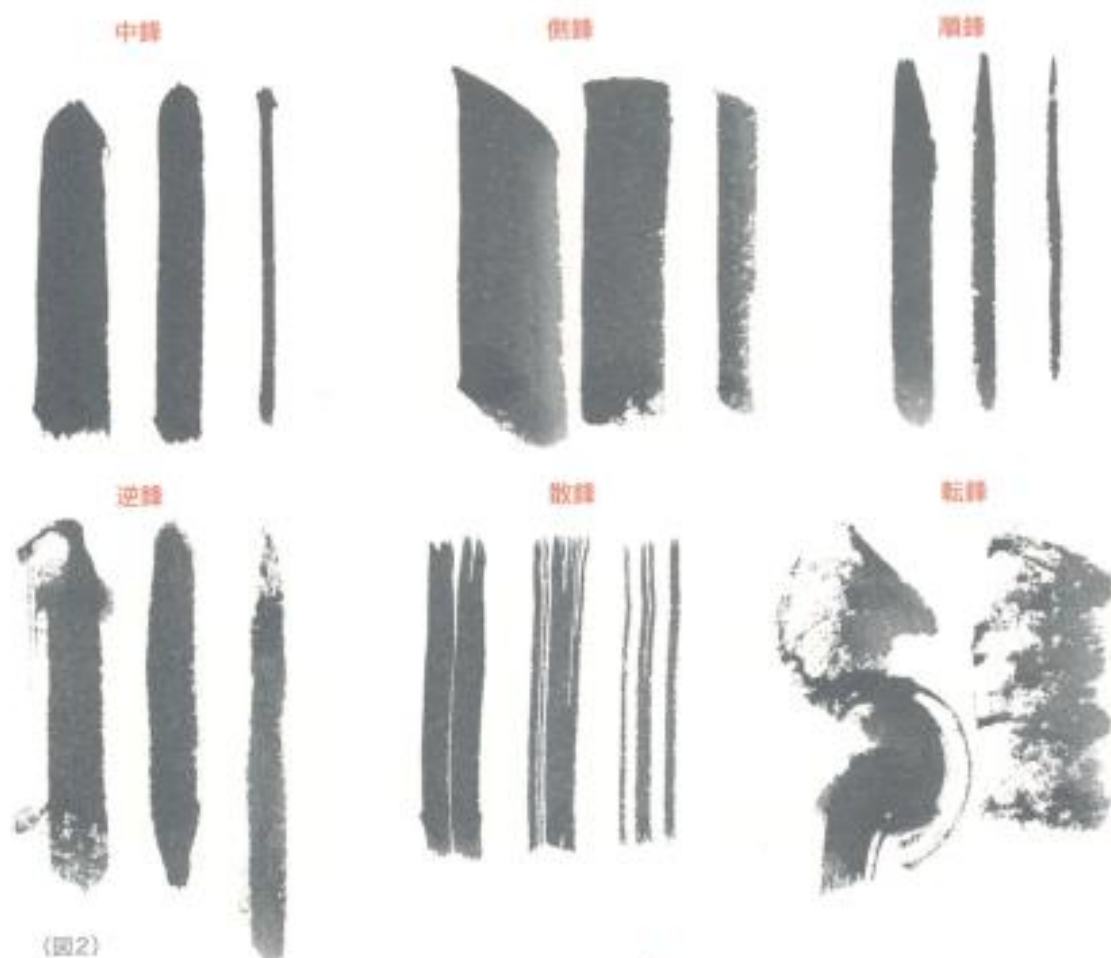
筆毛を整えず散開させて、一度に多様な線を描き出せます。飛白（かすれ）の効果や描線の広さ、変化などが得られます。

転鋒

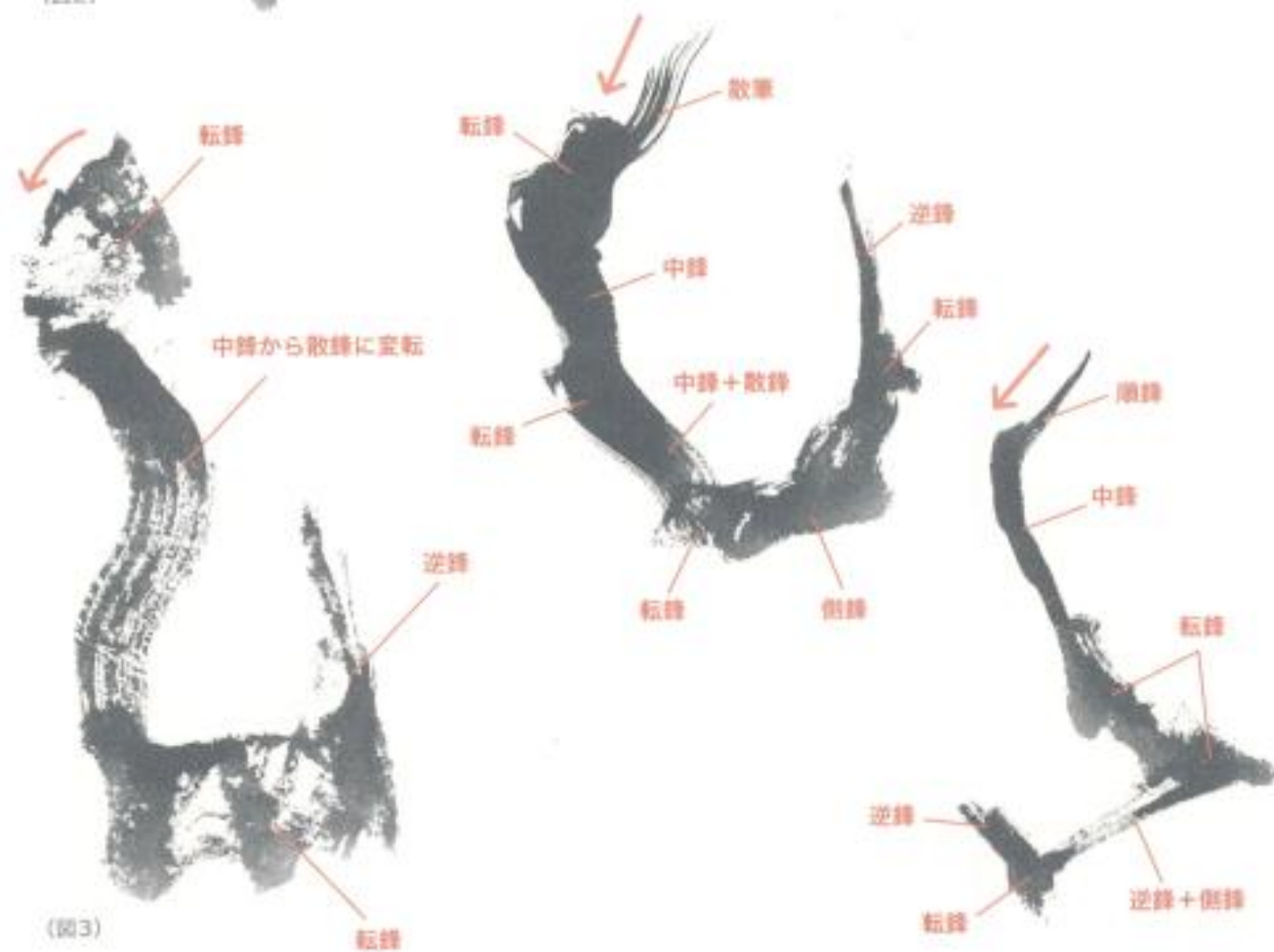
筆軸を指で回しながら描きます。擦れたりかすれたりの変化に富んだ描出ができます。

「著作権保護コンテンツ」

これらの用法は、描く内容に適した使い分けをしたり、また併用、混用などをして、効果的な表現が生み出せます。(図2・3)



(図2)



(図3)